

読書の秋です、開倫塾の塾生の皆様は、本格的な読書をいたしましょう！！

ー好きな作家、ジャンル(分野)の本を、思う存分、読んでみよう！！ー

開倫塾 塾長

開倫塾日本語学校 理事長・校長

林明夫

Q：どんな本を、どのように読んだらいいのですか。

A：(1) まずは、自分で持っている本から始めましょう。「もう一度読みたい本」や「最後まで読み終えていない本」があれば、1 ページ目から最後のページまで、頑張って読んでみましょう。

(2) 一度読んで、よく頭に入らなかった本は、もう 1 ～ 2 回、ゆっくり読み直してみましょう。同じ本でも、読み返すたびに新しい発見があります。

(3) 家にある本で、まだ読み終えていない本があれば、家の人に断ってから、1 ページ目から最後まで、丁寧に読んでみましょう。

(4) 一度読んでよく理解できなかった場合は、もう 1 ～ 2 回、ゆっくり読み直してみましょう。

Q：一度読んで、読み終わらなかった本は、最初の 1 ページから読み直した方がいいのですか。

本は最後まで読んだ方がいいのですか。2 ～ 3 回読んだ方がいいのですか。

A：(1) 途中まで読んで、まだ読み終えていない本は、1 ページ目から丁寧に、ゆっくり、一語一語かみしめながら読むことをおすすめします。

(2) どのような本でも、最初の 100 ページくらいまでは、とにかくゆっくり読み、内容を理解することに努めましょう。

(3) 一度読んで「これは大切な本だ」「もう一度読みたい」と思った本は、もう 1 ～ 2 回、ゆっくり、一語一語かみしめながら読みましょう。できれば、最後まで読むことをおすすめします。

(4) よい本は、読めば読むほど、新しい発見があります。何度も読むことで、最初には気づかなかったことが見えてきます。

Q：自分の本や、家にある本以外の本は、どのように選べばいいのですか。

A：(1) 学校の教科書に、本文の一部が掲載されている作品で、興味を持ったものがあれば、その作品の全文が載っている本を図書館や書店で探してみましょう。図書館から借りたり、書店で購入したりして、1 ページ目から最後まで、ゆっくり読んでみましょう。気に入ったら、もう 2 ～ 3 回読んでみることをおすすめします。

○学校の教科書には、作品の一部だけが掲載されている場合が数多くあります。

- (2) 例えば、夏目漱石の『坊っちゃん』もその一つです。教科書で『坊っちゃん』の一部を読み、興味を持ったら、全文が載っている本を図書館や書店で探し、じっくり読んでみましょう。
- (3) 国語をはじめ、各教科の教科書には、代表的な作品や人物が紹介されています。授業を聞いたり、自分で勉強したりする中で、興味や関心を持った作品や人物があれば、図書館や書店で探してみましょう。
- (4) 学校や開倫塾の先生方から「この本を読むといいよ」とすすめられた本があれば、図書館や書店で探し、1 ページ目から最後まで、じっくり読んでみましょう。
- (5) 新聞や「ビブリオバトル」で紹介された本の中に、読みたくなった本があれば、図書館や書店で探してみましょう。
- (6) 学校図書館には、できれば1 日1 回は出かけてみましょう。公共図書館や街の書店には、毎週、または毎月出かけてみましょう。図書館や書店の「どこに、どのような本があるのか」を知っておくことが大切です。
- (これは、100 円ショップを上手に活用するために、時々出かけて「どこに何があるのか」を知っておくのと同じです。)

Q：本はどのように読んだらいいのでしょうか。

- A：(1) 「これは」という本は、1 ページ目から最後のページまで、ゆっくり、丁寧に、一語一語かみしめながら読みましょう。
- (2) 著者・作者と「時空を超えた対話」をするような気持ちで、本を読みましょう。自分の本であれば、気づいたことや考えたことを余白に書き込むのもよいでしょう。図書館の本であれば、読書ノートに書き留めましょう。
- (3) 「本は最後まで読む」。そして、「これは」という本は、2 回、3 回読む。できれば6 回読む。繰り返し読むことで、理解がさらに深まります。
- (4) お気に入りの作家・著者が見つかったら、その代表作を何冊か読んでみましょう。さらに興味を持ったら、その作家・著者の「全集」に挑戦するのもよいでしょう。
- (5) 自分の専門領域にしたい「分野」が見つかったら、その分野の代表的な人物の作品や、「古典」と呼ばれる作品にも挑戦してみましょう。ノートを取りながら読むと、理解がさらに深まります。

Q：本を読むこと、読書で得られるものは、何だとお考えですか。

- A：(1) 第一は、「思慮深さ」と「自分を振り返る力（省察力）」です。本を読むことで、さまざまな人の考えや生き方に触れることができます。自分自身について考えるきっかけにもなります。
- (2) 第二は、「読解力」です。さまざまな文章や情報を、正確に、分析的に、そして素早く読み解く力です。
- (3) 第三は、「幅広い知識」です。読書を通して、さまざまな分野について知ることによって、自分の「見識」を広げることができます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：（１）本を読んでいて、よく分からない語句が出てきたら、「分からないままにしておくのは気持ちが悪い」と考え、辞書で調べる習慣を身につけましょう。辞書を引く習慣が身につくと、語彙力が高まり、読解力を身につけることにもつながります。

（２）読書と同時に「新聞を毎日読み続ける」こともおすすめします。新聞を読むことで、さまざまな出来事や社会の問題について知ることができ、「読解力」や「自分で考える力」を育てるきっかけになります。

（３）「辞書」「新聞」「読書」「図書館」に慣れ親しみ、「読解力」を身につけましょう。「辞書」「新聞」「読書」「図書館」は、４点セット、一体のものとして親しみましょう。

【ご参考】

1．＜読書ノート＞できれば、＜書き抜き読書ノート＞を作ろう！

（１）読んだ本の、作者・著者名、作品名、発行社名、発行年月日

（２）気に入った語句、文章、表現があれば、「書き抜く」。

（３）感想や、意見があれば、記入。

2．＜ビブリオバトル(推薦本発表コンテスト)＞に参加しよう！

（１）自分の好きな本、推薦したい本を手に取り、５分間、何も見ないで、発表。

（２）発表後、参加者が、２分間、質問。

（３）の発表者が５分間発表、２分間質問。

（４）その日の発表者の発表が終わったら、発表者全員に質問。

（５）質問が終了したら、その日の発表を聞き、読みたくなった本はどれかを、一人一票で 投票(発表者は、自分の推した本以外に投票、その日のチャンピオンを決め、表彰。

(宇都宮大学、作新学院大学、客員教授)
(公益財団法人文字活字文化推進機構評議員)